別紙様式５

令和2年度　　学 校 評 価 表　　（ 最終評価 ）　　東広島市立もみじ小学校 ・もみじ中学校

学校教育目標	自らを律し、自ら行動する人間の育成 ～ 自律と自立 ～	経営理念	「育ち直し」「学び直し」の理念のもと、児童生徒の自律・自立を支援する。 ～ この学校で学んでよかったと思える学校づくり ～

評価計画							自己評価					学校関係者評価		改善方策
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値 7月	達成値 12月	達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
学習指導	1	確かな学力の定着	わかる授業づくりの推進	・単元構成を含むUDを取り入れた授業の徹底 ・一人一人の実態に応じた丁寧な指導	・生徒の意識調査「この教科の授業はよくわかります」の肯定的評価の割合 ・学園職員の意識調査「わかりやすい授業を行っている」の肯定的評価の割合	80%以上 80%以上	中学生 84.2% 小学生 88.9% 学園 86%	中学生 90.1% 小学生 93.3% 学園 85%	中学生 109% 小学生 113% 学園 107%	4	年間を通して、児童生徒の学習状況の把握に努めながら授業を展開した。UDや個々への段階的な指導を取り入れることで、児童生徒自身が「わかった」「できた」と感じる機会が多くあったのではないかと考えられる。 来年度以降も、様々な状況の児童生徒の入所が想定されるため、各教科での有効な取組等の情報を共有しながら推し進めていく必要がある。	A	特になし	継続して取り組んでいく。
			自主的な学習態度の育成	・授業時間等での課題提示の充実及び寮学習での取組内容の明確化	・生徒の意識調査「学校で宿題が出されたら忘れずにしています」の肯定的評価の割合	90%以上	中学生 95.8% 小学生 100%	中学生 96.9% 小学生 97.2%	中学生 107% 小学生 110%	4	年間を通じて、各教科担当と広島学園職員との連携を適宜取り合うことで、設定されていた目標値を達成できたと考えられる。個々によって有効な提示方法が異なることが多かったり、個人によって宿題忘れが固定化している状況も見られるため、引き続き連携や工夫が必要になる。また、退園後にも自主的・意欲的に課題等に取り組めるような意識づけも必要になってくるのではないかと考えられる。	A	評価項目である生徒の意識調査「学校で宿題が出されたら忘れずにしています」は調べなくても先生が調べた結果で評価した方が客観性がある。	教科担任が把握している課題の提出率をもとに評価を行う。
生徒指導	2	社会に通用する生徒の育成	生徒理解に基づく指導の充実	・学園との連携による人間関係能力向上に係る指導の充実	・児童生徒の意識調査「周りへの感謝と思いやりの心をもって生活できるようになった」の肯定的評価の割合	70%以上	100%	95.5%	136%	4	目標値を大きく上回ることができた。ほぼ全員自己評価で肯定的評価をもてるようになっている。集団生活の中での自分の生活を考えて、感謝と思いやりを持った行動ができたと言える部分が１つでもあるという結果となった。何人か転入生が入ってもこの結果であり、SSTや月間目標などの取り組みもこの結果につながっていると考えられる。	A	来年度は、目標値を高く設定してほしい。	目標値を高く設定する。
			部活動の充実	・全職員で見守る指導 ・広島学園との連携による協働的な指導	・児童生徒の意識調査「部活動では達成感があった」の肯定的評価の割合 ・平日の部活動への教員参加率	85%以上 90%以上	88.9% 参加率 95%	95.5% 参加率 95%	112% 105%	3	ほぼ目標値どおりとなった。達成感においては、けがをしてしまい、自分のベストが出せないという理由で肯定的評価にできない生徒がいた。野球部から陸上部へ変わっても生徒たちは目標をもちながら努力した結果である。部活動への参加率では、男女合わせて部活動に教員６名以上参加で達成という基準に変更した。進路や来年度に向けての準備ややらなければならないことが立て込み６名という人数が確保できなかった日が数日あった。	A	特になし	継続して取り組んでいく。
信頼される学校	3	関係機関から信頼される教育活動の充実	広島学園職員から信頼される教育活動の推進	・一人一人の課題やニーズに応じた教育活動の充実	・学園職員の意識調査「本校の教育活動に満足している」の肯定的評価の割合	80%以上	95%	100%	125%	4	目標値を上回ることができた。意識調査結果から学園職員と積極的なコミュニケーションを図ったことが起因していると考えられる。一方、わかりやすい授業においては、肯定的評価が85%と7月と同じように他の質問項目と比べ低く、次年度の課題である。	A	来年度は、目標値を高く設定してほしい。	目標値を高く設定する。
業務改善や働き方	4	効果的な教育活動の充実	勤務時間を意識した働き方の浸透	・業務の役割分担の見直しと適正化	・勤務時間外の在校時間が月45時間未満の割合	50%以上	93%	91%	182%	4	目標値を大きく上回ることができた。教職員一人一人が意識し、効率よく業務を行った結果と考えらる。また、教職員の意識調査から、「報告・相談・連絡」の徹底や、教職員間の良好なコミュニケーション及び職員室の机上整理もその一因と推測される。	A	来年度は、目標値を高く設定してほしい。	目標値を高く設定する。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「１」「２」「３」で表示する。

■自己評価
4 …目標を上回って達成　　3 …目標どおりに達成
2 …目標をやや下回って達成　　1 …目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価
A …とても適切である　　B …概ね適切である
C …あまり適切でない　　D …全く適切でない